

## 【実践報告】

# 教育実習Ⅳ実践報告

広島文教女子大学人間科学部

グローバルコミュニケーション学科 教授 笹原豊造

## 0 はじめに

教育実習Ⅳは4年生で実施される本実習の準備段階に位置づけられる。その内容は、事前指導2コマ分、広島大学附属中・高等学校研究大会参加5コマ分、事後指導2コマ分で構成されている。

広島大学附属中・高等学校は、平成15年以来12年間にわたって、文部科学省スーパー・サイエンス・ハイスクールに（SSH）の指定を受け、理数系教育を中心とした研究と実践を展開している。ここ3年間の研究テーマとして「知識基盤社会における生徒の育成」を掲げ、第2年次の本年度は「教科教育における方略」を副題として、「知識基盤社会において育成目標とする力を精緻化し、その力を育成する」ための具体的方略を各教科で考究することとしている。

## 1 実践のスケジュール

回	活動内容
1	事前指導（実習に臨む心構え・実習校の紹介・研究大会の概要など） 国語・英語合同
2	事前指導（教科別に事前指導）
3～7	広島大学附属中・高等学校研究大会参加 11月29日(土)
8・9	事後指導（教科別に事後指導）

## 2 研究大会の概要

### (1) 国語科

#### ①教科主題（抜粋）

昨年度より教科主題「総合的に考える力の育成」を掲げ、「総合的に考える力」を「テキストの表現・言語事項・背景を結びつけて解釈し、既得の知識・実生活での体験、読書などの追体験を結びつけて考えることで、生きて働く知識にする。他者との交流により、多様な視点を得て、思考の可能性を広げることで、柔軟に考えていこうとする姿勢・態度を身につけていく」こととしました。今年はその力を育成する方法を授業、研究発表で明らかにしていきます。

#### ②公開授業

朝倉孝之	語られたものをどう受け止めるか	－少年の日の思い出－	中学1年
増田知子	主張をどのように伝えるか	－韓愈「雑説」－	高校1年

### ③研究発表

西原利典 「話し合い」を考える

## (2) 英語科

### ①教科主題（抜粋）

新学習指導要領では、コミュニケーション能力を養うことが大きな柱の一つとなっています。本校英語科ではコミュニケーション能力を「英語に関する基礎的、基本的な知識・技能を様々な場面において適切に活用できる能力」と位置づけ、日々の授業において、この能力をどのように育てるかを課題とした授業改善に取り組んでいます。昨年度は「技能の統合的活用を目指した授業」をテーマにした授業実践を行いました。今年度も継続して4技能相互の有機的な関連を意識しながら、的確に理解し、適切に伝える力を高めることを目指した授業を行う予定です。

### ②公開授業

石原義文	技能の有機的な統合を目指した授業	中学1年
瀬戸口茂久	技能の有機的な統合を目指した授業	高校1年

### ③研究発表

山岡大基 「英語表現」時代のライティング指導

## 3 全体講演

### ①「人間型ロボットと未来社会」 石黒博 大阪大学特別教授

2011年、大阪文化賞を受賞。主な著書に『ロボットとは何か』（講談社現代新書）、『どうすれば「人」を創れるか』（新潮社）など。

### ②講演の骨子

技術の進歩と共に我々の身の周りのものはより人間に親和的になっていく。これは本来人間が人間を認識し、人間と関わるための脳を持つからである。人間型ロボットの研究は、単なる技術開発ではなく、そのような人間を理解するための研究であり、またその開発を通して得られる人間に対する理解は、より人間が適応しやすいメディアの原理を導き出す。本講演ではこのような人間型ロボットがどのような未来社会をもたらすかを議論する。

### ③学生レポートより

○哲学的な話の中で、「人間の存在とは?」、「美しさとは?」、「知識とは? 考えるとは?」、「心とは?」などという、簡単そうで難しいことについていろいろと考えさせられました。たしかに、普段、何気なく使っている言葉だけど、うまく説明できない、なんとなく暗黙の了解で意味が分かっているつもりでいる言葉はたくさんあります。「心とは?」と聞かれてもわたしは答えられないと思うし、人によって様々な考え方があり、正解も不正解もないと思います。哲学の難しさを改めて実感しました。

○自閉症の子どもと関わる際にはロボットを使用したほうが話し相手として最適だと言っていた点に興味を感じました。(中略) 自閉症の子どもにとってはロボットだからこそ心を許すことができたり、緊張を感じなかったりと対話の中でもロボットならではの利点があることを初めて知り面白いと感じました。

## 参考資料

広島大学附属中・高等学校ホームページ